

令和6年度 第2回 岸和田市観光振興計画推進委員会

1 日時 令和6年10月2日（水）午前10時～午後0時

2 場所 岸和田市役所新館4階第2委員会室

3 出席者

【学識経験者】石田信博、徳山美津恵、佐野楓

【公共的団体の代表者】阪口寿子、西村令子、中井秀樹、山本義治、藤浪勝三

【関係団体の代表者】塩見正成、上田貴司、杉田精教

【市民公募】西崎玲圭

【オブザーバー】小嶺大輔、保田地維子

【欠席者】田邊真

【事務局】船橋魅力創造部長、井上観光課長、有留担当主幹、藤本担当長、薮内担当員、出口担当員

【傍聴者】 3名

次第

1 開 会

2 議 事

（1）令和6年度実施事業の進捗について

（2）令和7年度実施事業について

（3）その他

3 閉 会

配布資料

○次第

○配席図（資料①）

○観光振興計画推進委員会委員名簿（資料②）

○インバウンド観光客入込数（資料③）

○令和6年度実施事業の進捗（資料④）

○令和7年度実施事業について（資料⑤）

○令和6年度観光振興計画推進委員会スケジュール（資料⑥）

1 開会

2 議事

(1) 令和6年度実施事業の進捗について

●事務局

資料④をもとに、各事業の進捗とあわせて第1回委員会にて出た意見のご報告

●委員（G）

定量的データの報告はあったが、各取組みにおいてそれぞれ目的があったと思う。例えば計画の前期では、関西圏或いは中部、それから首都圏、海外については東アジアというところが目標になっていたが、属性やニーズを取りまとめ、計画に基づいて実施していく必要があると考える。

●事務局

アンケートについては、基本的に各事業において実施している。また、第1回委員会にていただいた意見をもとに属性やニーズが汲み取れる設問を設けるようにしており、各事業集計中である。第3回委員会にて取りまとめ報告する。

●委員（G）

例えばシート2でいうと、どのように活用するかといった本質的なところが重要であるため、そのあたり踏み込んで記載してもいいと考える

●委員（D）

岸ぶらについては、もう少しデータを取って分析してはどうか。また、今年度事業をたくさん実施していることは良いと考えるが、これらの事業を実施しているということをさらに対外的に発信していくことが必要

●事務局

本市ウェブサイトや広報誌は基本だが、そのほか観光局や KIX 泉州ツーリズムビューローを活用して配信するようなど、民間にご協力いただくようにしている。

●委員（D）

農水省のプロモーション事業をきっかけに発信が強化された自治体もある。インパクトある内容が効果的であると考え。アンケート集計については、タブレットを活用して即時集計できる機械化も検討いただきたい。

●事務局

プロモーションについては重要だと考えている。今年度内閣府が実施していた北米をターゲットにした映像コンテンツの活用の事業に、テレビ岸和田と応募したが不採択となった。なぜ不採択だったのかの分析含め委員の方から意見いただき、積極的に情報発信したいと考える。

●委員（I）

シート全体を通して、Bに目標数を設定しているため、事業進捗に目標の達成率について明記したほうが良いと考える

●事務局

目標の達成状況については、次回委員会にて各事業報告させていただく

●委員（J）

食に関して、桃の事業についてもっと全面的に強化してはどうか。他の果樹に力を入れて分散させるより効果的ではないか。

●事務局

今年度バスツアーを初めて実施して、包近の桃は期間も限られていることから、かなり人気であったことを実感した。最終目標は民間事業者による自走化を目指しており、桃に関しては手ごたえあったと感じる。集中的に事業実施することは効果的と考えるが、今年度事業の反省点含めて報告する。

（２）令和７年度実施事業について

●事務局

・資料⑤をもとにまず基本方針１のプロモーションを説明（シート１～３）

●委員（G）

・プロモーションについて、なにをプロモーションするかが大事。どの地域でもプロモーションは実施しているため、岸和田ならではのどう発信するのか、今の時期に何をするのか、今後何をしていくのかということを、ストーリーをもたせてより具体的に体系化する必

要がある。プロモーションを強化するという内容だけでは弱い。

●事務局

- ・委員のおっしゃる通りストーリー性をもたせて情報発信して参りたいと考える。岸和田城と八陣の庭と能のつながりは岸和田ならではの考える。まず今年度事業を実施し、効果検証して参りたいと考える。

●委員（G）

- ・今年度事業のアンケート結果から見えるものがある。経年的に考えていくということを念頭にシートをまとめる方がわかりやすいと考える。

●委員（D）

- ・観光資源は多いが認知されていない。例えば岸和田の歴史について、もっと取り組んではどうか。観光に対する取組みについては、過去から進化して変わってきており、さらに効果的に事業を実施していくことができると考える。

●委員（H）

- ・岸和田城とだんじりが泉州ではダントツと考える。ただし、それらが本当に認知されているのかと疑問に思う。インバウンド観光客や海外の旅行会社の方にも認知されているのか。ただ、知れば興味を持っていただけるコンテンツと考える。インバウンド観光客は岸和田市だけを観光して帰国するとは考えにくい。岸和田の観光を中心に、その他泉州地域に波及するような体系をとっていけるよう舵を取っていただきたいと考える。そこに関して当社も協力したいと考える。

●事務局

- ・先日東京ビッグサイトにて開催されたツーリズムエキスポジャパン 2024（以下、TEJ という。）に参加し、結果として商談に至ったのは 1～3 件である。隣の堺市は商談スケジュールがすべて埋まっており、改めて考えさせられた。泉州地域は観光資源が点在しているため、南大阪に来て、堺市にきてそこから岸和田含む泉州地域へ来ていただけるよう、沿線の民間事業者や自治体と協力したいと考える。

●委員（B）

- ・TEJ を踏まえて、各種エージェントと約 30 件近く話をした結果、組み込んでもらうというのは難しいという話ではあった。泉州エリアとしてテーマを設定し、売れるコンテンツの発信等で、事業者と連携できればと考える。

●委員（D）

- ・堺以南では歴史的な繋がりもあるため、単独ではなく KIX 泉州ツーリズムビューローや各自治体と連携して、また民間事業者を活用するほうが効果的である。

●委員（A）

- ・各事業について SNS 等を活用した情報発信をしていると思うが、コンテンツの実施や発信だけではなく、どういう効果があるかの分析が必要。現在、各種 SNS やウェブサイトとかは費用をかけずにインサイトの情報を得ることができる。効果指標について、目標だけでなく、誰がどれくらいどのような投稿閲覧があったのかを分析することで、見えてくるデータもある。

●委員（B）

- ・当協会としては、インスタで広告等も活用したほう効果的であると考え、岸和田城がふるえるのイベントの際に活用し、結果がでた。

●副委員長

- ・近年は SNS という全体的な使われ方はせず、個別の媒体（インスタグラムや TikTok 等）として使用されている。バズっている情報がどれくらいあるのか、どのような内容なのかの分析も重要。初めてのことで、実験の繰り返しになると思うが、事業によって活用する媒体も異なる。例えば桃はインスタグラムが効果的であるとか。コンテンツごとにどういう形で見てもらうかを実験的に試して取り組んでみてはどうか。フィルムコミッションの推進について、受け入れ組織が重要。どこが窓口でどこが受け入れるのかを明確にする必要がある。

●事務局

- ・フィルムコミッションについて、過去の実績として組織的なものとして動けておらず、個人として対応していた部分があった。TEJ の商談の中でも、組織立ててできないかと検討している。

●委員（F）

- ・岸和田はお城と祭ということは事実である。祭の時は盛り上がっていることは事実であるが、当日だけではなく盛り上がりを見せる必要がある。南海や JR、商店街でだんじり囃子を流すなどはどうか。また、手荷物預かりは実施しているのか。

●事務局

- ・手ぶら観光については、電鉄等に確認をして現状南海岸和田駅に小さいコインロッカーが

1台あるのみ。大阪観光局にて現在手ぶら観光についての取組みをしていると伺っており、意見を頂戴したい。

●委員（G）

- ・手ぶら観光について、インバウンド観光客に対して、預けることができる場所を分かりやすく示す必要がある。手ぶら観光のビジネスについては、ホテルや駅等で荷物を運ぶサービスなど、今年に入り各事業者において積極的に取り組んでいる。民間事業者において様々な取組みが実施される中、泉州地域ではむしろチャンスであると考え、旅前から予約してもらってきてもらう仕組みを考えていくべきである。

●委員（F）

- ・CMで他のお城が取り上げられている。今回のカーネーションの再放送をきっかけに岸和田城を取り上げてもらえないのか。第1回委員会でも度々申し上げているが、だんじり会館のリニューアルが実施されたが、魅力的でない。マルチスクリーンがなくなったことで迫力が感じられず、説明もしにくい。こちらを再度見直すことはできないのか。

●事務局

- ・マルチスクリーンを再度運用することは考えていない。祭礼関係者の方々とも調整し、間違いのない情報を発信することとしてリニューアルを実施した。現在のだんじり会館での運用でどのようにすれば魅力的な活用ができるかのご意見をいただきたい。

●事務局

- ・資料⑤をもとに基本方針2のコンテンツを説明（シート4～7）

●副委員長

- ・シート5、新たなお土産の開発について、今までのお土産もあり、これから開発するものもある。中身はもちろんだが、パッケージというデザイン性も検討が必要。既存の土産もデザイン会社等と連携してはどうか。お土産モノの開発だけで終わらないようにすべきである。

●委員（G）

- ・各コンテンツについて縦割りでなく、各コンテンツを掛け合わせることで相乗効果が得られると考える。キーワードになる岸和田ならではのポテンシャルをうまく活用して掛け合わせることで、更なるオンリーワンができると思う。

●事務局

- ・例えば、八陣の庭の八陣法にちなんだお土産の開発等も検討している。和菓子については、当時作り方を守っているものもあるので、岸和田の文化とセットでストーリー立てたいと考える。

●委員（H）

- ・韓国の観光協会の方もだんじりを知らなかった。日本に行っただけでなく、こういうことをしたというようなプチ自慢が必要。地元と触れ合うような体験も重要。だんじりを長期的に体験してもらうような他ではないコンテンツが売れる材料になるのではないかと考える。

●事務局

- ・だんじり祭に関して、一部旅行会社と調整していると伺っている。

●委員（C）

- ・外国人のインフォメーションを今年度も実施。アンケート集計も第1回委員会で発言して今年度実施した。特に意見いただくのはお土産について。お土産を販売している場所の増設や、その案内について協議いただきたい。法被など岸和田ならではのお土産の開発があればいいと思う。だんじり会館のマルチスクリーンについて、大型テレビ等テレビ岸和田の映像を放映してはどうか。

●委員（B）

- ・だんじり当日のお土産については、だんじり会館や交流センターで販売しており、祭に関連するグッズや日持ちのする飲食物等多くの方に今年度も購入いただいた。その他、岸和田ならではのお土産の開発について検討して参りたいと考える。

●委員長

- ・歴史好きが皆歴史があるところに来るとは限らない、付加価値をつけないとコンテンツとして売れない。食と歴史を組み合わせるなどし、付加価値をつけることがポイントと考える。

●事務局

- ・資料⑤をもとに基本方針3の受入体制の整備・充実を説明（シート8～10）

●委員（E）

- ・既存の組織を利用することが重要と考える。小学校などで講義するようなことをしてはどうか。また、だんじりの絵画を書いてもらうことで、だんじりに親しんでもらい、文化継承に繋がると考える。通年でだんじり文化を伝える一つの手法として、教育機関を活用してはどうかと考える。

●事務局

- ・各種事業において、教育機関を活用して取り組んでまいりたいと考える。

●委員（D）

- ・だんじり文化が根付いていることは事実。祭礼関係者含め、観光的な観点も踏まえて、だんじり文化をどう継承していくかを考えている。

●委員長

- ・だんじり文化と捉えて発信していくための拠点が必要と考える。その機能を担っているのがだんじり会館であり、リニューアルもされて展示機能として立派であると考え。その展示に至る背景には、歴史文化を研究し、支えられているため、さらに調査研究し、正しい情報の発信が必要と考える。

●副委員長

- ・観光アンバサダーとはどういうことイメージしているのか。

●事務局

- ・観光大使とは別に、市民含め、留学生など岸和田の魅力を地元や母国に対して、SNS 等を活用して情報発信いただけるような方を考えている。歴史街道推進協議会とともに留学生向けのワークショップ等も実施しているので、それらも活用したい。

●副委員長

- ・観光という点だけでなく、暮らし等含めた全般的に考えてはどうか。子供を連れていくとなった場合、親目線での観光情報が求められる。もう少し観光アンバサダーという視点を広くしてはどうかと考える。

（３）その他

●委員（I）

- ・万博に向けての事業で、万博に来ていただいた方にもう１日別の場所へ足を運んでもらえるような仕組みを考えている。阪和線沿いの地元 PR を各地区会において考えている。だん

じりやお土産など、素材となりうる情報の提供や参画をお願いしたい。詳細は随時情報提供する。

●事務局

・本市のフィルムコミッションに関して、協力していただける方や、助言等いただける方がいれば情報共有いただきたい。

また、第1回委員会において、令和5年度の観光客入込数の報告をした際に、インバウンド観光客数についての質問があったため、資料③にまとめている。こちらは計画に記載の施設の取りまとめとなっている。次回委員会については、資料⑥のスケジュール通り3月中旬頃を予定している。今後の委員会において、計画に基づいて説明等させていただくため、各委員にて昨年度策定の「観光創造ビジョン・岸和田」の持参をお願いしたい。

●石田委員長

・本日の推進委員会を閉会する。